



▲豊興寺跡(三宅中4丁目) 寺跡には豊光寺地蔵尊と東集会所が建てられている。堂は、北向きから西向きに変えられている。



▲豊興寺日本尊の阿弥陀如来立像(三宅中5丁目・西方寺蔵) 高さ69.5cm。市の指定有形文化財。



▲光輪寺跡付近(三宅中4丁目) 豊光寺地蔵尊から見た北東側に境内があった。交差点は防壁上、道を曲げるあてまげになっている。



▲善長寺(三宅中5丁目) 光輪寺と善長寺は東本願寺を頂点とする、江戸時代の本末関係から繋がりが深かった。

※豊興寺:寺名は豊興寺だが、現在の地蔵尊は豊光寺と記す。

三宅東の融通念佛宗と浄土真宗西方寺と善長寺に受け継がれる

三宅中五丁目の屯倉神社西側の道は、中高野街道とよばれます。平安時代以降、平野(大阪市)方面から高野山(和歌山県)に続いていました。現在、三宅地域で法灯を続ける善長寺・願久寺・玉應寺(以上、真宗大谷派)や西方寺(融通念佛宗)の四か寺は、いずれも街道の西側に集まっています。

先般、松原市老人クラブ連合会の第三回「歴史ウォーク」が三宅地区で行われました。私は、今回もガイド役として同行しました。屯倉神社や四か寺を訪れた際、参加者の方から「三宅のお寺は、街道の西側に集中していますね」と問いかけられました。「今は、そうですね」と答えながら、江戸時代の三宅村の文書から、過去には村内に十数か寺が記されていることを話しました。

四か寺の他、豊興寺(融通念佛宗)や光輪寺(真宗大谷派)をはじめ、梅松院(屯倉神社神宮寺・真言宗)、自得庵(西之坊(以上臨濟宗)、蓮華庵(禅宗)、清流庵、羽咋庵、極楽寺(三宅墓地)などが知られています。豊興寺以下は、いずれも明治時代から昭和時代にかけて廃寺となり、今では建物は残っていません。そのうち、中高野街道東側の屯倉神社北側や東方にも何か寺が集まっていました。とくに、豊興寺と光輪寺は昭和

三十年代まで本堂や山門などが残っていたことから、記憶の中に留めておられる方も多くおられます。

屯倉神社から中高野街道を北に行くと、三宅・別所霊園に行く通称、墓道が東へと延びています。江戸時代以来の旧道で、南北と交わる道の南東角に東集会所と豊光寺地蔵尊(三宅中四丁目)が見られます。ここに、豊興寺が建っていました。三宅村内の中の東村です。

『大阪府全志』(大正十一年発行)によると、豊興寺は「佛徳山と号し、融通念佛宗総本山の大念佛寺(大阪市平野区)の末寺でした。阿弥陀如来を本尊とします。鎌倉時代、融通念佛宗中祖の法明の念佛勸進道場として創建された」と伝えています。境内は五拾九坪で、本堂・倉が残っている」とあります。

東村を中心とした門信徒に信仰されましたが、昭和三十一年(一九五〇)に廃寺となりました。昭和三十六年(一九六一)には、本尊阿弥陀如来像が、吸収合併した西方寺に移されました。同像は、平安時代後半〜末期(十二世紀末)の古仏で、ヒノキ材による一木造です(『歴史ウォーク』257)。

宝暦十年(一七六〇)九月の『三宅村明細帳』には、豊興寺本堂は「梁行二間、桁行三間の瓦葺で、三方は庇がある」と記しています。庫裏は「葺葺で、梁行二間、桁行二間半」とあります。

本堂は、北向きに建てられています。楠の太木が茂り、今は地蔵尊が西

向きに祀られています。もともとは北向き地蔵でした。香華台に昭和十一年(一九三六)一月に建立されたことを記し、豊光寺地蔵尊の名で信仰されています。毎年八月二十四日には、三宅東町会の地蔵盆で賑わっています。

豊興寺の北側すくすの所に、やはり東村の門徒に信仰された真宗大谷派の光輪寺がありました。『大阪府全志』には、創建年代は不詳ですが、山号は解脱山と号し、阿弥陀如来像を本尊とするとあります。境内は九十九坪で、本堂・門が残っていることも記されています。

光輪寺は、京都の東本願寺を本山としますが、江戸時代には善長寺を上寺としていました。善長寺の隠居寺の時期もあつたようです。弘化三年(一八四六)以降に書かれた三宅村の『飛騨恵』には、「浄土真宗当村善長寺下光輪寺」とあります。また、光輪寺は「了祐寺」とも言つと付記されています。

西向きの本堂は梁行二間、桁行四間半の葺葺で、桁行一方二間半は瓦庇でした。庫裏は梁行二間、桁行三間半の葺葺とあります。宝永三年(一七〇六)の三宅村の大火で焼失しましたが、宝永五年(一七〇八)に再建されたことも記されています。

戦後、建物が毀れた光輪寺の跡は、今では住宅地となっています。本尊も大阪市内に流出したと言われています。豊興寺跡と共に、東村の信仰の歴史の中に刻み継がれています。